

取扱説明書

自走式雑草刈機

“オートモア―”

AM61/71B



0213-70020



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、本紙定期点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
- 本製品の保守には必ずメーカー純正品をご使用ください。

株式会社 **オーレック**

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目 次

項 目	頁
《はじめに》	1
《重要なお知らせ》	1
《本製品の規制について》	1
《保証・契約書・免責事項》	1
《定義とシンボルマークについて》	2
《安全に作業をするために》	2
《各部の名称》	6
《各部のはたらき》	7
《上手な運転のしかた》	9
運転前の始業点検 ----- 9	走行・旋回・変速・停止のしかた ----- 12
エンジン始動・停止のしかた----- 9	トラックへの積み降ろしのしかた ----- 14
《上手な作業のしかた》	15
草刈作業のしかた ----- 15	
《長期保管のしかた》	18
《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》	19
ミッションオイルの点検・補給・交換 --- 19	エンジンオイルの点検・補給・交換----- 20
可動部への注油のしかた ----- 20	
《各部の点検・整備・調整のしかた》	21
点火プラグの点検・調整のしかた ----- 21	燃料フィルタポットの清掃のしかた ----- 23
エアクリーナの清掃のしかた ----- 21	そのほかの点検 ----- 23
タイヤ空気圧の調整のしかた ----- 22	各部ワイヤ・ベルト調整のしかた ----- 24
燃料パイプの点検のしかた ----- 23	
《ナイフの点検・交換のしかた》	26
ナイフの点検・交換 ----- 26	
《仕 様》	27
《機械を他人に貸すときは…》	27
《工具袋・同梱品明細》	28
《定期自主点検表》	29
《刈り取り性能診断》	30
《エンジンの不調とその処理方法》	31

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。



警告

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

《重要なお知らせ》

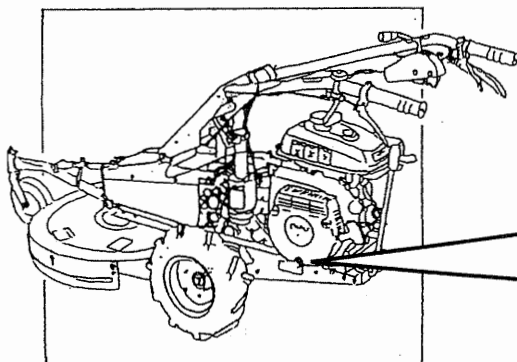
- 性能・耐久性向上及びその他諸事情による部品等の変更で、お手元の製品の仕様と本書の内容が一部一致しない場合があります。
- 本書の内容の一部又は全部を無断で複写複製(コピー)する事は、法律で定められた場合を除き、著作権の侵害となりますので予めご注意ください。
- 本書では説明部位が具体的に理解できるよう、写真、イラストを用いています。説明部位以外は省略されて表示されている場合があります。
- 本書は日本語を母国語としない方のご使用は対象としていません。

《本製品の規制について》

本製品は農業用機械として開発しておりますので、これ以外の用途(レンタル等、作業者が特定されないような使われ方)では使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。又、地を這うように伸びるツタ、ツル等の草については刈取れない場合もあります。

《保証・契約書・免責事項》

- 本書とは別に本製品には品質保証書が添付されています。必ず品質保証書裏面の保証規約を良く読んで理解しておいて下さい。
- 本製品の保証期間は、新品購入から1ケ年、又は50使用時間(請負業務用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっています。
- 全ての注意事項を予測する事は不可能です。製品を使用する際には作業側も安全への配慮が必要です。
- 本書を読んでも判らない場合には勝手な操作はせず、必ず製品お買い上げの販売店(以降販売店)までご相談下さい。
- 製品を安全に効率よくご使用し続けて頂くためには定期的な点検・整備が不可欠です。「定期自主点検表」及び「年次点検表」に記載のある定期的な点検・整備を必ず最低毎年1回は販売店まで依頼しましょう(有料)。これらの点検・整備を行わなかった事及び仕様を越えた使用・改造等本書に従わなかった事に起因する故障・事故に関しては保証の対象外となります。
- ご不審な点及びサービス等に関するご質問は、販売店までご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名(エンジン本体に刻印又は貼付されています。)]を併せてご連絡下さい。





種類 Description	ロータリーモア(歩行型)
型式名 Model	AM61B
製造番号 Serial No.	0000000000
発売元	(株)オーレック
株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON	

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。

《 定義とシンボルマークについて 》

「危険」、「注意」、「参考」について、本取扱説明書では、次のような定義とシンボルマークが使用されています。これらは安全で快適な作業を行っていただくために、特に重要な部分です。注意深くお読み頂き、十分理解して必ず守って下さい。

 **危険：** 人身事故防止用
 遵守しないと人身事故が発生し、場合によっては **死亡** の可能性もある。

 **注意：** 製品自体の損傷防止用
 遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与える。

参考： 操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項。

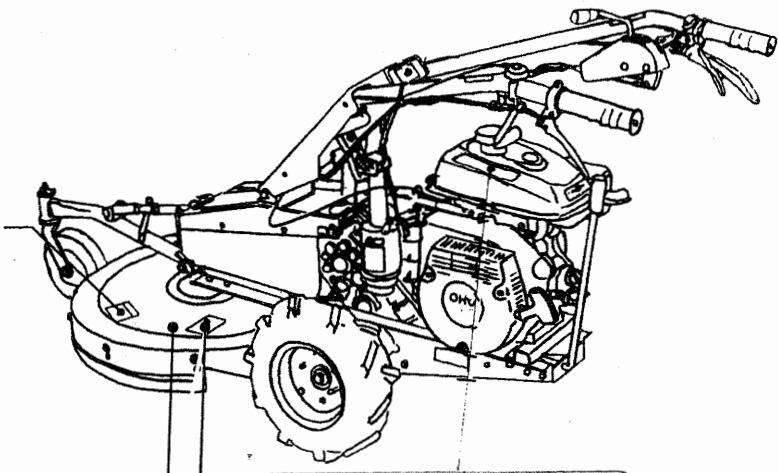
《 安全に作業をするために 》 …重要危険項目…

〈 1 〉 危険表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。


☞…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈27頁…消耗品明細 参照〉

☞…本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。




警告

手や足を近づけたり踏んだりしないで下さい。
 高速回転のナイフで手や足に大ケガします。



83-1484-921-00

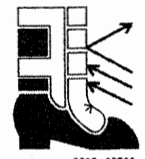
警告



刈取部周辺は、飛物の飛出により人、家畜・車等に被害を与え危険です。右側の異物は取除き、安全に注意して作業をして下さい。

83-1516-922-00

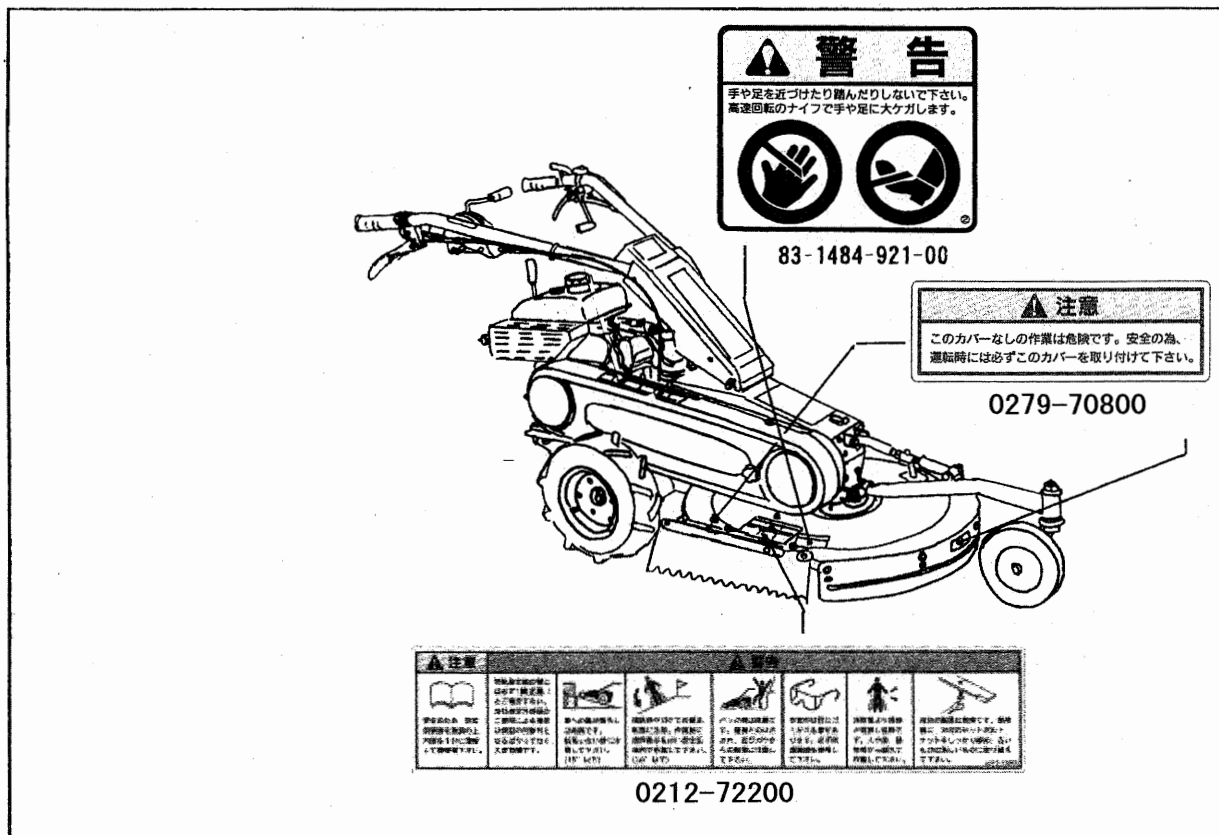
注意



作業環境により、作業側へ異物が飛散しケガをする恐れがあります。安全のため製品付属のゴーグルと共に、市販のフネ当て等の保護具も併せて着用される事を、お奨めします。

0209-90200


0209-90200




（２）作業前の注意


- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の人には使用しないで下さい。
- ・作業者の体調が悪いときや過労ぎみ、飲酒時のときは作業しないで下さい。
又、子供や妊婦にも作業させないで下さい。
- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡等を必ず使用して下さい。
- ・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等がないことを確認し、作業中は、半径10m以内にこれらのものを近付けないで下さい。
- ⚠️ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は、非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。
- ・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。
- ⚠️ ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかりと締めて下さい。
又、古いものは新しいものに取換えて下さい。
- ⚠️ ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。
- ⚠️ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・椅子等の乗用装置のないもの（歩行タイプ）は乗用できません。これらのものに、人や動物を乗せないで下さい。
- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・ナイフクラッチと走行クラッチが「切」の時、Vベルトが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には、速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤーを調整して下さい。
- ・10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。


 斜面で本機の山側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に身体が入ることがあり危険です。特に湿った斜面は滑りやすく危険です。斜面では、本機の山側にはいないようにして下さい。

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
- ・狭い橋の上を走行する場合、転落の危険性があります。狭い橋等は走行しないで下さい。

 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。

〈 3 〉 燃料給油時の注意


- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで抜き取り、又周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラーの温度が十分下がってから行って下さい。

〈 4 〉 始動時の注意


- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・走行クラッチ、ナイフクラッチを「切」位置にし、変速レバーを「中立」位置にして、ブレーキがあるものはブレーキを掛けてから始動して下さい。
- ・回りに人や動物や車両等がない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動してください。

〈 5 〉 積み降ろし時の注意 〈14頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、車止めをして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは「」位置で、降ろす時は「後進」位置でどちらもゆっくり行い、その他の位置には絶対に入れないで下さい。


〈 6 〉 作業中の注意


・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。


 排気マフラー付近は熱いため、火傷をしないよう、手等を近付けないで下さい。


・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖からの転落等がない様足場に注意して下さい。

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

 刈取部より石などの異物が飛散し危険です。人や車、建物などからはなれて十分ご注意の上作業して下さい。

 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。

 冷却風の吸込口、シリンダー付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアークリーナー内部の清掃も同時に行ってください。

 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後作業を始め、安全のため、通常よりも高刈りで作業をして下さい。

ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石、木株などにあたった場合は、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲りの有無を調べて下さい。


〈 7 〉 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止めて下さい。キースイッチがある物は、キーを抜いておいて下さい。

・安全のため、燃料コックは必ず閉めて下さい。


〈 8 〉 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

 ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

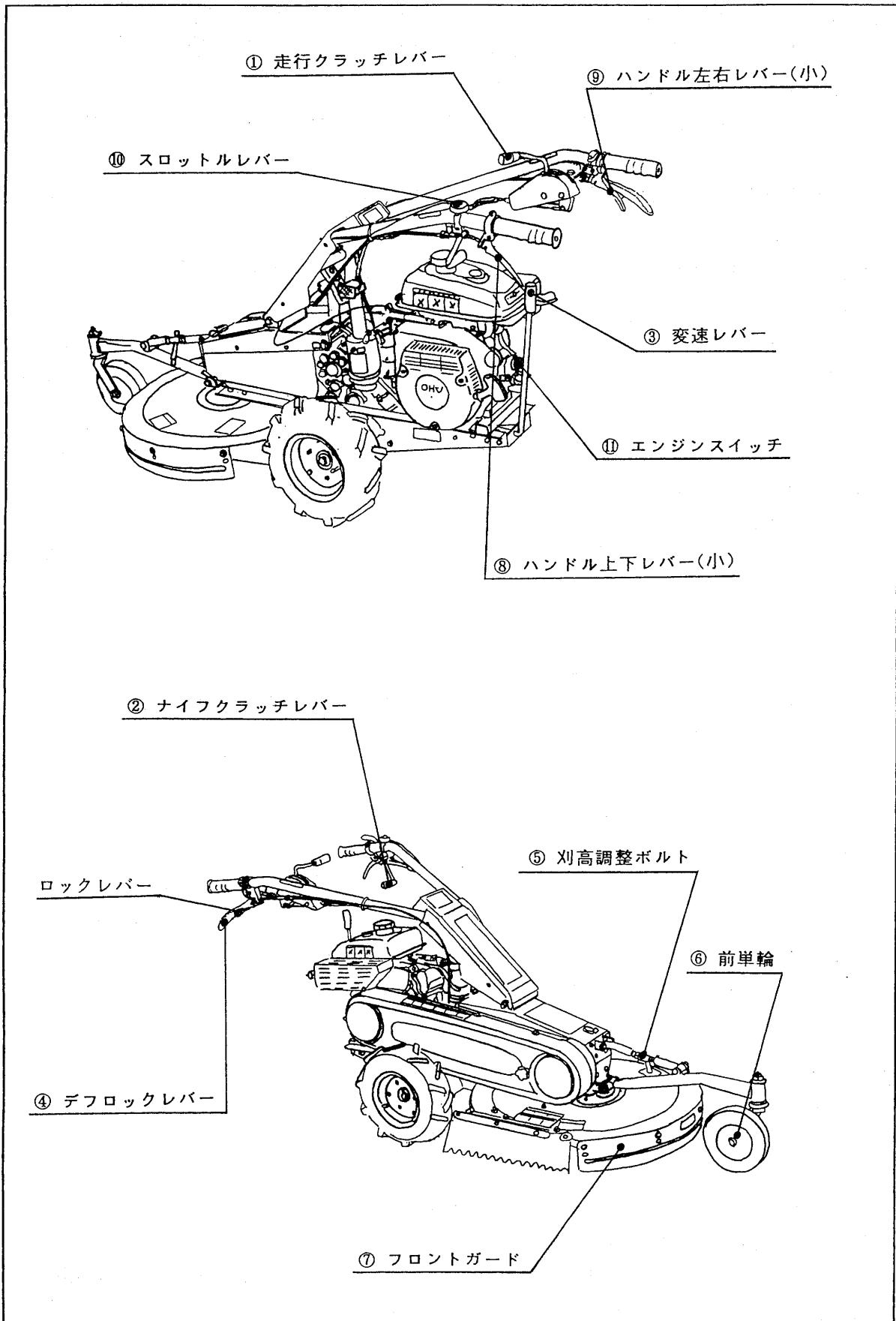
 ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラーやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

・ナイフブレーキ、走行（駐車）ブレーキのあるものについては安全のため、使用時間が100時間に到達しない時点で交換して下さい。

《 各部の名称 》



《各部のはたらき》

① 走行クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。レバーを前に倒すと「前進」位置、レバーを貴方の方へ引くと「後進」位置になります。「前進」位置と「後進」位置の間に「切」位置があります。

※注意：





「後進」位置では変速レバーの位置に関係なく独立して作動します。

変速レバーがどの位置にあっても走行クラッチレバーを「後進」位置にするとバックしますので操作には十分注意して下さい。

② ナイフクラッチレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。レバーを上には引き上げると「入」位置、左手の親指でレバーを下方に押しとハンドルから手を離さずに「切」位置にできます。

③ 変速レバー

走行速度の選択に使用します。操作は前進のみで「」、「」の2段です。変速する場合には走行クラッチレバーを一旦「切」位置に戻した後に操作して下さい。「」位置ではゆっくりと、「」位置ではスピーディーな前進が行えます。

※注意：

「後進」への切り換えは走行クラッチレバー側で行い、変速レバーでの切り換えはできません。

④ デフロックレバー

ハンドル右側にあるロック付のレバーでレバーを握ってロックさせると「入」位置、レバーと一緒にロックレバーを握って離すと「切」位置となります。

通常は「切」の位置で使用して下さい。

傾斜地や地面が軟弱な場所での作業において片側のタイヤだけスリップして直進しにくい場合や、またトラックへの積み降ろしの際にデフロックレバーを「入」位置にすると左右のタイヤは直結となり直進性が増します。

※注意：

◎移動時デフロックレバーは「切」の位置にして下さい。

◎走行クラッチレバーを「前進」位置にしたままでデフロックレバーを操作するとギヤが破損する恐れがあります。

◎トラックへの積み降ろしや坂道、傾斜地等の走行時には安全のため、デフロックレバーは「入」位置にして下さい。

⑤ 刈高調整ボルト

刈高きの調整をするときに操作します。操作はロックボルトを緩めた後に行い、調整後は必ずロックナットを締め付けておいて下さい。

参考：

ロックナットを締め付けないままで作業を続けると作業中の振動で刈高が変わってしまう恐れがあります。

⑥ 前単輪

スラストベアリングの採用により旋回方向へハンドルを振るだけで素早く前輪の向きを変えることができます。

参考：

平坦な圃場で障害物(木や柱等)の間を縫う様にして作業をする場合にはデフ機構と相俟って小回りの効いた作業をすることができます。

注：デフ機構

本機を旋回させる際に左右のタイヤの内輪差を自動的に調整する機構で、この機構により旋回させる方向にハンドルを振るだけでスムーズな旋回をすることができます。

⑦ フロントガード

ナイフカバーからの石やその他の異物の飛散を防止します。作業状況に応じて上下2段に調整することができます。

⑧ ハンドル上下レバー(小)

ハンドルの左側にある小さなレバーで、作業状況又はオペレーターの体格に応じてハンドルの高さを上下5段階に調整することができます。

⑨ ハンドル左右レバー(小)

ハンドルの右側にある小さなレバーで、作業状況に応じてハンドルの位置を左側に2カ所、中心に1カ所、合計3カ所で固定することができます。

(安全のため、右側へはハンドル回動はできません。)

⑩ スロットルレバー

エンジン回転数の増減を調整します。

⑪ エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行います。

《 上手な運転のしかた 》

運転前の仕業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈30頁参照〉に従って仕業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

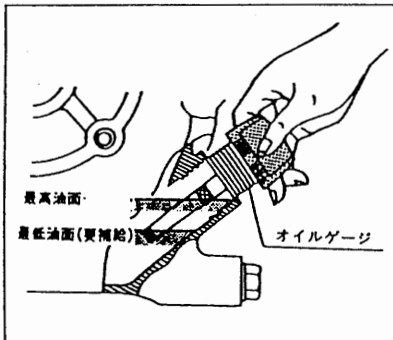
! 危険：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジン始動・停止のしかた

! 危険：

- ① 締め切った室内でエンジンを始動しないで下さい。
 - ☞ 締め切った室内でエンジンを始動すると …
有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ② ガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明はガソリンに引火したりして危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③ エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。
- ④ エンジンの暖機運転は、締め切った部屋では行わないで下さい。
- ⑤ エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。

エンジン始動のしかた



- ① エンジンオイルを確認して下さい。
- ② 給油栓がオイルゲージを兼用しています。
オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい。

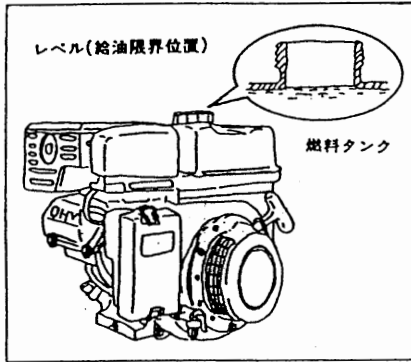
※注意：

エンジンは水平にして給油栓はねじこまずに差し込んで点検して下さい。

参考：

使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い別けて下さい。

☞ …	夏期(10℃以上)	SAE30、SAE10W-30、又はSAE40
	冬季(10℃以下)	SAE5W20又はSAE10W-30

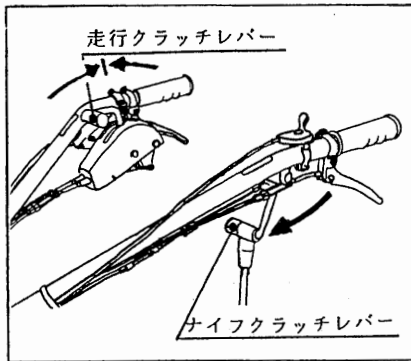


②燃料を確認して下さい。〈タンク容量は28項参照〉
燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

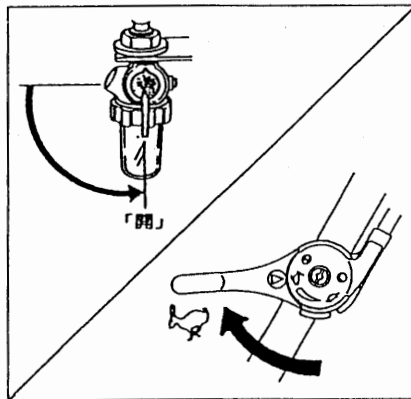


危険：


- ・燃料を入れるときには必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- ・エンジンとマフラーが冷えているのを確認した後入れ過ぎて燃料をこぼさないよう注意し、もしこぼれた場合はきれいにふきとって下さい。

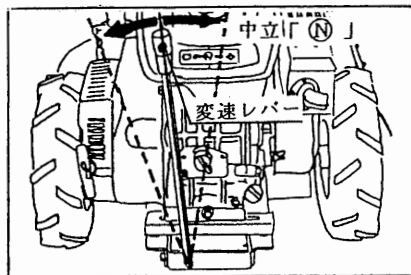


③走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバーは共に「切」位置にあることを確認して下さい。

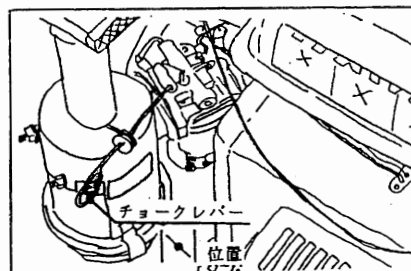



④燃料コックを「開」位置にして下さい。

⑤スロットルレバーを操作し、「」位置にして下さい。

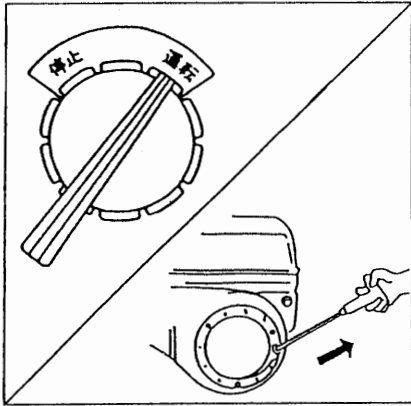


⑥変速レバーを中立「N」位置にして下さい。

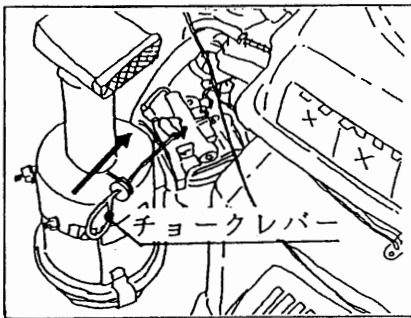


⑦チョークレバーを操作し、チョーク弁を「閉」位置にして下さい。

参考:エンジンの暖機が済んでいる場合には、
チョークレバーの操作は必要ありません。



- ⑧ エンジンスイッチを「運転」位置にし、スターターノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ります。エンジン始動後は直ちにスターターノブをゆっくりと元の位置に戻して下さい。

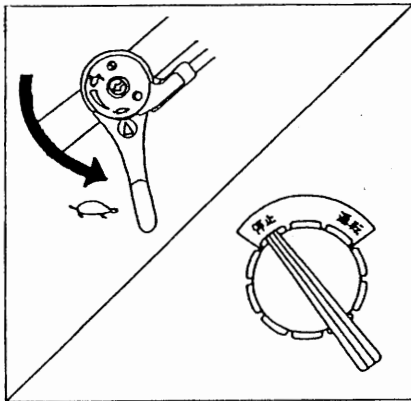


- ⑨ エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「開」位置にして下さい。

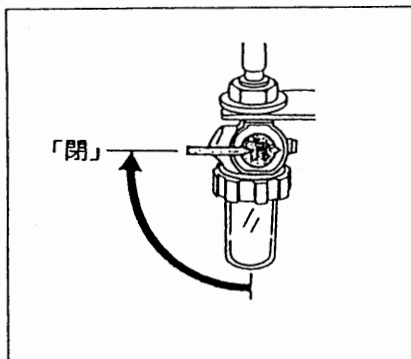
※注意：

- エンジン始動後は負荷をかけずに約5分間は低速側で暖機運転をして下さい。
- 暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルをいきわたらせ寿命を延ばします。

エンジン停止のしかた



- ① スロットルレバーを「閉」位置にし、エンジンスイッチを「停止」位置にするとエンジンは停止します。



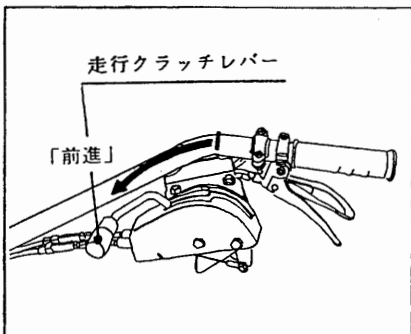
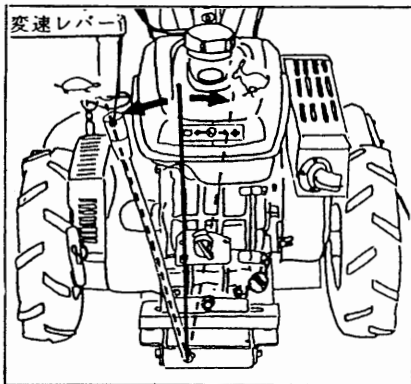
- ② 最後に燃料コックを「閉」位置にして下さい。

走行・旋回・停止のしかた

⚠ 危険：



- ・所有者以外の人には使用させないで下さい。
- ・走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
- ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。また、勾配が10°以上の傾斜地での使用は、転倒・暴走の危険がありますのでこれらの場所での使用はしないで下さい。

走行・旋回のしかた





①エンジンを始動させて下さい。

〈9頁…エンジン始動のしかた参照〉

②変速レバーを「」、「」の内から所要の位置に確実に入れて下さい。

変速（ギアチェンジ）が不十分な場合ギア抜けの恐れがあり大変危険です。

ギアが入りにくいときには無理に入れずに走行クラッチレバーを「前進」方向へ少し動かしてから再度、確実にギアチェンジを行って下さい。

③スロットルレバーを低速「」と高速「」との中間位置にし、走行クラッチレバーを前に倒して「前進」位置にすると走行します。

※注意：

走行クラッチレバーを貴方の方へ引いて「後進」位置にすると、変速レバーの位置には関係なく本機はバックします。操作方法には十分に注意して下さい。

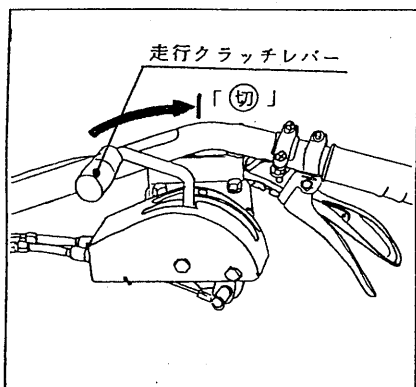
⚠ 危険：

- ・移動時には路面との衝突防止の為、エンジン停止後に刈高さを水平位置程度に調整して下さい。この際、逆に刈高さを上げ過ぎると刈高調整ボルトが受けから外れ危険です。
- ・走行、旋回時にはナイフクラッチレバーは絶対に「入」位置にしないで下さい。変速レバー、走行クラッチレバーの位置に関係なくナイフが回転しますので非常に危険です。
- ・片側のタイヤがスリップして直進しにくい場合や、傾斜地での使用、トラックへの積み降ろし以外はデフロックレバーは「入」位置にしないで下さい。
- ・デフロックレバーの操作は走行クラッチレバーを「切」位置にして行って下さい。

参考：

- ・旋回はハンドルを旋回方向へ振って行って下さい。
- ・平坦(条件の良い)な場所ではデフロックレバーは「切」位置にして行って下さい。デフロックレバーを「入」位置にしたまま旋回するとハンドルの操作が非常に重たくなります。

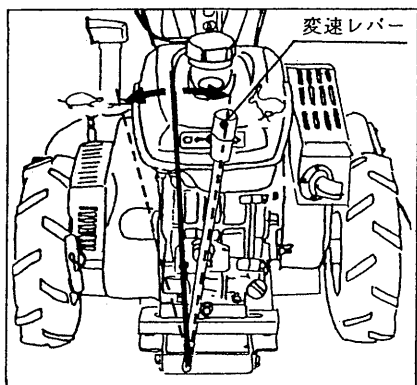
変速のしかた



- ① 走行クラッチレバーを貴方の方へ引いて、「切」位置にして下さい。

※注意:

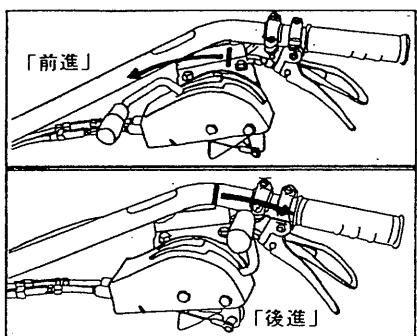
走行クラッチレバーを「前進」位置のまま変速レバーの操作を行うと危険であると同時に故障の原因にもなりますので絶対に行わないで下さい。





- ② 変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に代入して下さい。

参考:

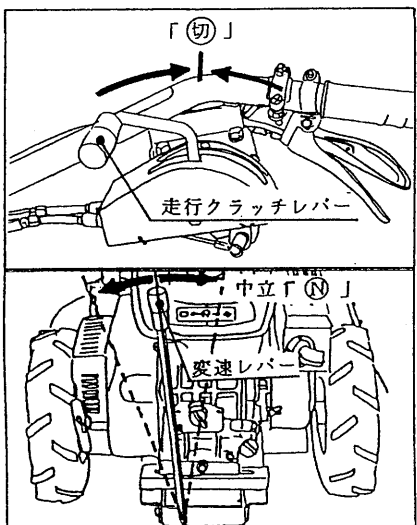
バックさせる場合には変速レバーの操作はせずにそのままの位置で走行クラッチレバーのみを貴方の方へ引いて「後進」位置にすると本機はバックします。
※変速レバーがどの位置にあっても本機はバックします。



- ③ 走行クラッチレバーを前に倒して「前進」位置にし、再発進して下さい。

参考: 「」位置ではゆっくりと、「」位置ではスピーディーな前進ができます。

停止のしかた



- ① 走行クラッチレバーを貴方の方へ引いて、「切」位置にし、本機を停止させて下さい。

- ② 変速レバーを「N」位置にして下さい。

- ③ エンジンを停止させて下さい。

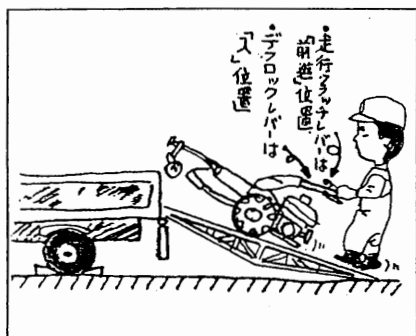
本機から離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉




トラックへの積み降ろしのしかた

⚠ 危険：

- ・運搬に使用する自動車は荷台に天井の無いトラックを使用して下さい。
- ・トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- ・トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。
- ・本機の正面は危険ですので、真正面には立たないで下さい。
- ・ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・トラックへの積み降ろしの際には、デフロックレバーは必ず「入」位置にして左右のタイヤが直結されたのを確認して下さい。
- ・トラックへの積み降ろし時に、ブリッジの上で走行クラッチレバー、ナイフクラッチレバー、デフロックレバー等の操作は絶対にしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・本機の左右のタイヤがそれぞれブリッジの中央に位置するようにして作業を行い、ブリッジ上で位置の修正は行わないで下さい。
- ・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで確実に固定し、荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ スロットルレバーは「」、「」の中間位置にして下さい。
- ④ 積み込む場合には変速レバーを「」位置にして、走行クラッチレバーは「前進」位置で行って下さい。降ろす場合には走行クラッチレバーを「後進」位置にして下さい。

⚠ 危険：

トラックへの積み降ろしの際には、ナイフ部分を地面から浮かせて行って下さい。ナイフがブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。

参考：ブリッジ基準…

- ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。
- ・長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上のもの。
- ・幅…本機の車輪幅にあったもの。
- ・強度…本機の重量に十分絶え得るもの。
- ・スリップしないように表面処理が施してあるもの。

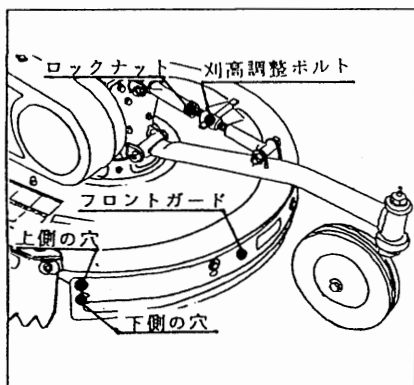
《 上手な作業のしかた 》

草刈り作業

⚠ 危険：

- ・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に取り除いて下さい。
- ・圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩、傾斜（限界傾斜角度 10° ）のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ・転落や衝突事故を防ぐため、建物、川やガケ、人のいる方向に向かっての作業は行わないで下さい。
- ・ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止してから行って下さい。
- ・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子又は、ヘルメット、メガネを必ず使用して下さい。
- ・作業範囲以内に人（特に子供）が入り込まないように、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径 10 m 以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- ・刈り取られた草は、本機の右吐き出し口より吐き出されるため、障害物に対し常に本機を右側に位置させて下さい。また、石等の異物が多い場所での草刈り作業についてはこれらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等、十分に注意して下さい。

参考：初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地を選び、ゆっくりと刈り跡が少し重複するようにまっすぐ刈って下さい。



- ①作業状況に合わせて刈高調整ボルトで前単輪の高さを調整し、調整後はロックナットで確実に固定して下さい。
- ②フロントガードを作業条件に合わせて上下いずれかの位置で確実に固定して下さい。
- ③エンジンを始動させて下さい。

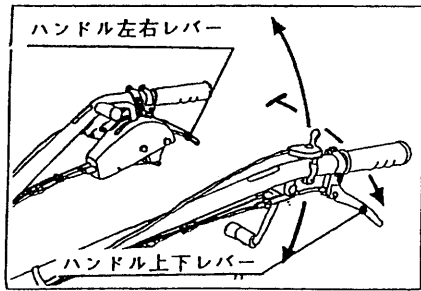
〈9頁…エンジン始動のしかた参照〉

参考：

- ・小石やその他の異物が多い圃場ではフロントガードは必ず上側の穴で固定して作業をして下さい。下側の穴で固定したまま作業を行うと、ナイフカバーよりの異物の飛散が多くなり非常に危険です。

⚠ 危険：

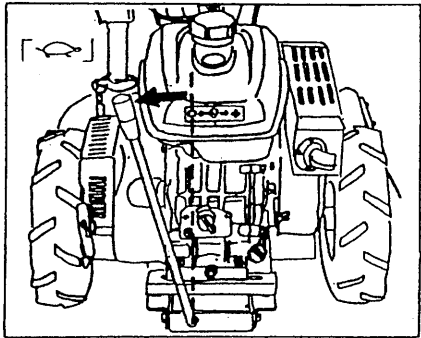
フロントガードの左右を入れ替えて固定して作業をすることは絶対にしないで下さい。ナイフが剥き出し状態となり作業中の異物の飛散により作業者はもちろん周囲にも甚大な被害を及ぼす恐れがあります。



④ハンドル上下・左右レバーで作業内容や作業者の体格に合わせてハンドルの上下・左右の位置を調整して下さい。

参考：

木の下、垣根わき等ではハンドルを左側に振ると体を避ける事なく作業ができます。

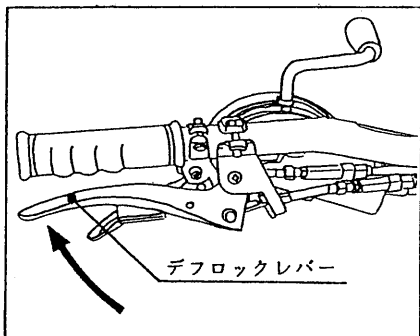


⑤変速レバーを「前」位置にして下さい。



危険：

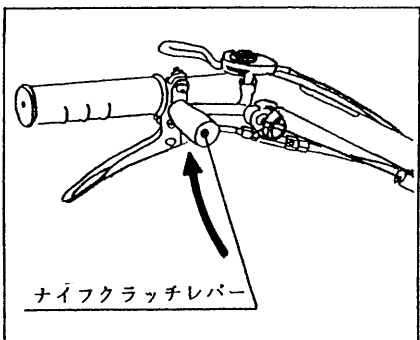
安全のため、最初は「前」位置からスタートし、周囲の安全を確かめたうえで作業条件にあった速度にして下さい。




⑥作業状況によってはデフロックレバーを「入」位置にして作業をして下さい。

参考：

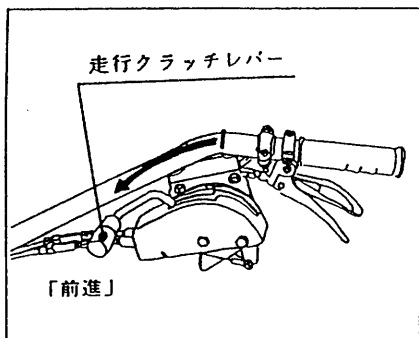
傾斜地での作業や地面が軟弱な圃場での作業はデフロックレバーは「入」位置で、その他条件の良い圃場では「切」位置で作業をして下さい。



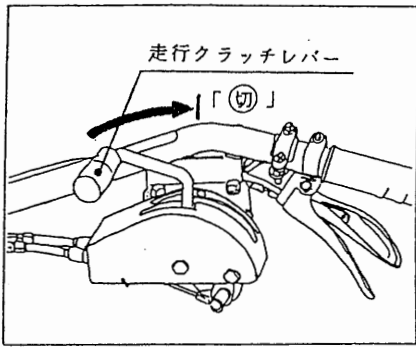
⑦スロットルレバーを高速「」の位置にして下さい。

⑧ナイフクラッチレバーをゆっくりと上に引き上げて「入」位置にして下さい。

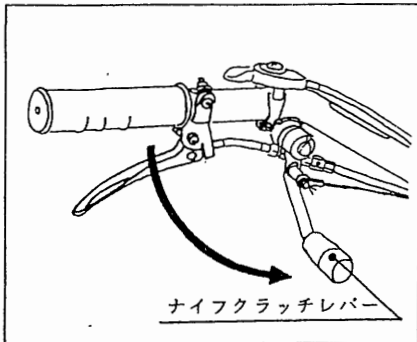
⚠…ナイフが回転しますので十分に注意して下さい。



⑨次に走行クラッチレバーを前に倒して「前進」位置にすると作業を開始します。



⑩作業を停止する場合には、まず走行クラッチレバーを貴方の方に引き「切」位置にして本機を停止させて下さい。



⑪その後ナイフクラッチレバーを親指で押し下げて「切」位置にして下さい。

⑫エンジンを停止させて下さい。

〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

⚠ 危険：

・安全のため、本機から離れるときは必ずエンジンを停止して下さい。

〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

- ・ナイフの回転中はナイフカバー内側一杯までナイフがきましますので、作業中絶対に草等をナイフカバー内に足等で蹴り入れないようにして下さい。
- ・作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグキャップを点火プラグから外し、損傷を調べて下さい。異常があればすぐに修理して下さい。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。

※注意：

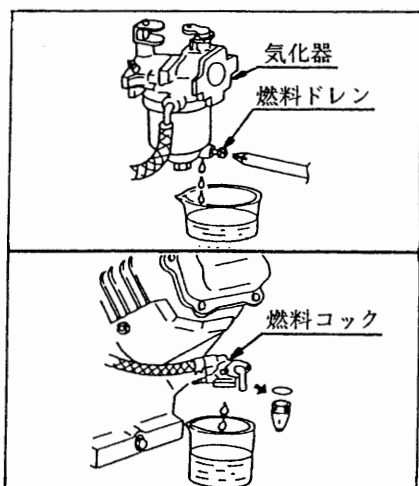
- ・草の量が多くエンジンがストップするようであれば作業速度を一段落とすか、刈り高さを上げるか、二回刈りをして下さい。
- ・ナイフカバーより石等の異物が頻繁に飛散するようであればフロントガードの上側の穴で固定するか、刈り高さを上げて下さい。
- ・エンジンに草、木の葉等を堆積させないで下さい。これら可燃物が堆積すると火災の原因になったり、本機を破損する場合があります。

《 長期保管のしかた 》

⚠危険：

★エンジンを停止して下さい。〈11頁参照〉

- ・くわえタバコや裸火照明での作業禁止。
- ・本機を保管する場合には、固い平坦な場所で本機を水平にして下さい。
- ・燃料を抜く時は火気厳禁。
- ・風通しの良い場所で行って下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時は、エンジンとマフラーが冷えてから行って下さい。
- ・抜いた燃料の取扱いは十分に注意して下さい。



①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料ドレンボルトを緩め気化器内燃料を排出すると共に、燃料コックより燃料タンク内の燃料を抜き、湿気のない場所を選んで保管して下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈20頁参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスターター、エアークリーナー、マフラー、気化器付近やベルトカバー内に堆積した草やホコリをエアー吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

☞…草やホコリが堆積したまま作業を続けると

草屑等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や、火災の原因にもなりかねません。

参考：ナイフカバー内に付着した草屑はこれが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に洗い落とすことができます。

☞…このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアークリーナー、マフラー排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所それぞれ注油をしておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけてほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

※注意：

- ・出荷時本機にはオイルは入っておりません。使用前には必ず指定の箇所に指定のオイルを指定の量だけ入れて使用して下さい。
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態を使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所においてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上)待ってから作業を行って下さい。

☞…エンジン停止後、すぐに作業を行うと

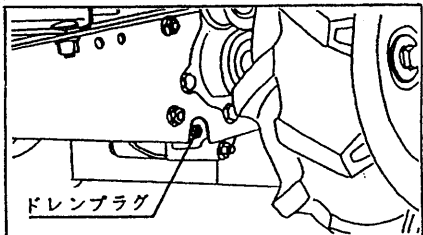
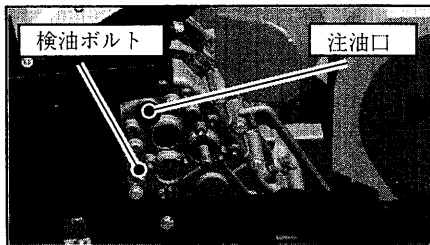
*エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。

*エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確な量が示されません。

- ・安全のため、作業が終了するまでは点火プラグキャップは点火プラグより外しておいて下さい。

ミッションオイルの注油・点検・交換

ミッションケース



◎注油…

ミッションケース左側面上部の注油口よりミッションオイル(#90)を1.6ℓ入れて下さい。

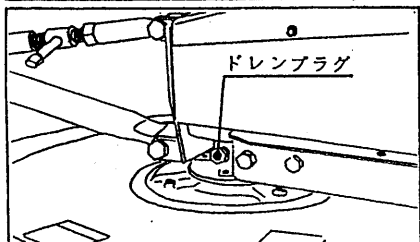
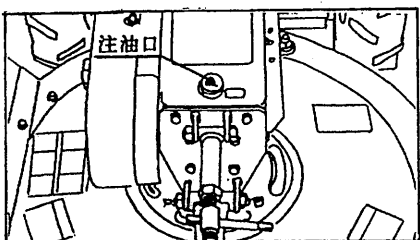
◎点検…

検油ボルトを緩めてオイルが滲み出てきたらほぼ規定量のミッションオイルが注油されています。

◎交換…

初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎を目安にミッションケース右側面下部のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。

ナイフギヤボックス



◎注油…

ギヤボックス上部の注油口よりミッションオイル(#90)を0.4ℓ入れて下さい。

◎点検…

エンジンを停止し、注油口より見て、下側のベベルギヤがミッションオイルに浸かっているればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。

◎交換…

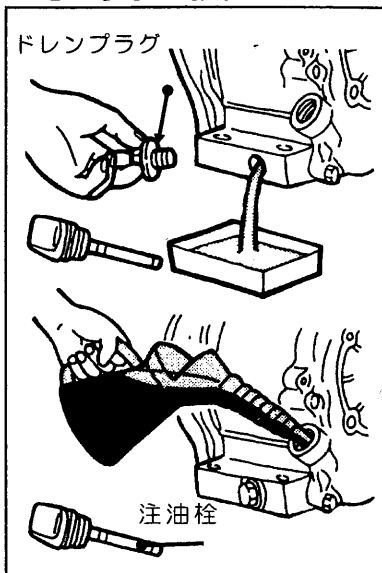
初回は20時間目、それ以降は100時間運転毎を目安にギヤボックス左側面のドレンプラグ(排油口)を外して行って下さい。

エンジンオイルの点検・補給・交換

◎ 点検・補給…

- ① 毎運転前に〈9頁…エンジン始動のしかた〉を参考にエンジンオイルの量、及び汚れを目視で点検し規定量でない場合、及び汚れがひどい場合には、補給または全量交換（下記参照）して下さい。（使用するエンジンオイルの質及び量は9頁参照）

◎ 交換…



- ① 廃油受け容器をエンジンドレンプラグ(排油栓)下に入れ、ドレンプラグを取り外してエンジンオイルを容器内に排出して下さい。
- ② 排出後はドレンプラグを元通りに締め付け、新しい指定のエンジンオイルを規定量まで給油して下さい。
〈9頁…エンジンの始動のしかた〉参照

参考：

- ・排油の際には、同時に給油栓も取り外しておくこと、オイルが抜き取りやすくなります。
- ・エンジンオイル給油時は、エンジン本体を水平にしないと規定量のオイルが給油できません。
〈9頁…エンジンの始動のしかた〉参照

交換の目安

初回：5時間目、2回目以降：25時間毎

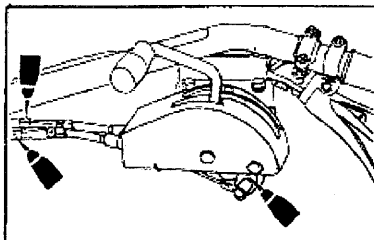
- 但し、高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行して下さい。
- 交換後は取り外したカバー、給油栓は確実に取り付けして下さい。

各部への注油のしかた

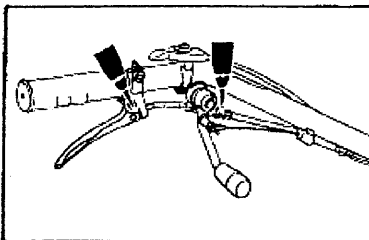
◎ 約 30 時間毎にグリース又はエンジンオイル(#30)を確実に注油して下さい。

注油を怠ると油切れにより操作加重が重くなり、最悪の場合破損の恐れもあります。

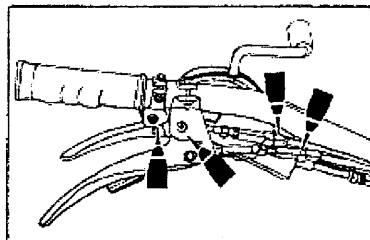
走行クラッチ、FRワイヤー・レバー支点



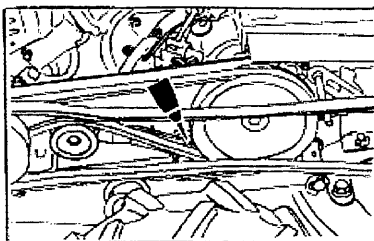
ナイフクラッチ、ハンドル上下ワイヤー・レバー支点



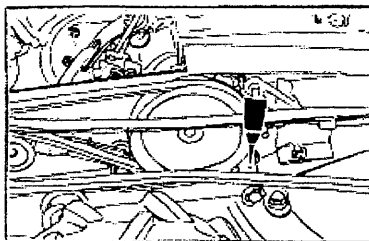
ハンドル左右、デフロックワイヤー・レバー支点



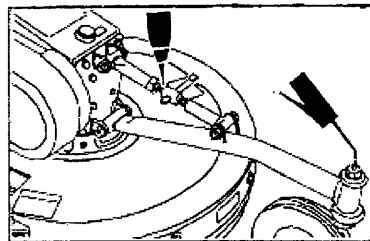
走行テンションアーム支点



ナイフテンションアーム支点

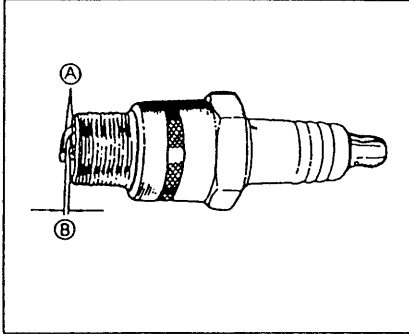


対高調整ボルト・前輪上部ニップル(グリース)



《 各部の点検・整備・調整のしかた 》

点火プラグの点検・調整のしかた



- ① プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分 ① にカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ② 中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③ 点火プラグの電極隙間 ② を0.7～0.8mmに調整して下さい。

参考：

締め付け時は、始め手でねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
始からプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。

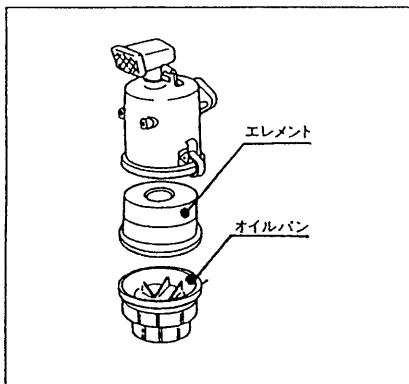
☞…点火プラグ基準（NGK）27頁…仕様参照

エアークリーナーの清掃のしかた

! 危険：

エアークリーナーが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより火災の原因ともなりますので必ず定期的に清掃して下さい。

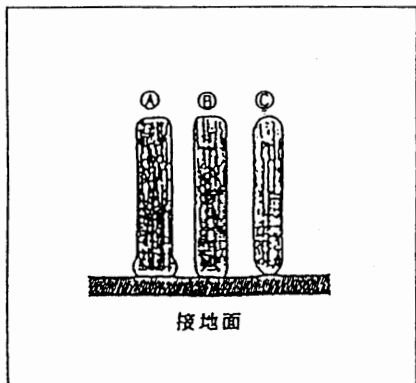
FE170,221/GB180GB220



- ① クランプを外し、オイルパンを外します。
- ② オイルパン内にたまった草屑、泥等を白灯油できれいに洗浄し、新しいエンジンオイル(SAE10W-30粘)をレベルまで入れて下さい。
- ③ フォームエレメントは中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後新しいエンジンオイル(SAE10W-30粘)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
- ④ ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元の通りに組み付けて下さい。

- チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

タイヤ空気圧の調整のしかた




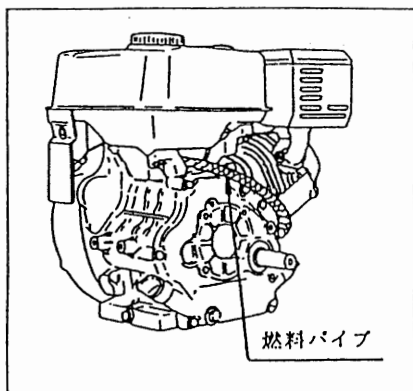
・タイヤの空気圧を、 $1.2\text{Kg}/\text{cm}^2$ 位に調整して下さい。
左右の空気圧が均等になっていないと、作業中ハンドルを取られる恐れがあります。

・外観から判断する目安は左図の通りです。

- Ⓐ：不足
- Ⓑ：適正
- Ⓒ：過剰

燃料パイプの点検のしかた

 危険： くわえたばこや裸火照明での作業禁止




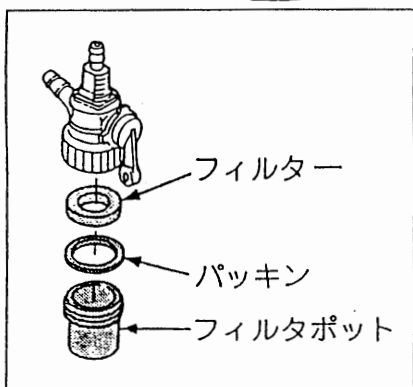
- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

※注意：

パイプ類の交換時にパイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルターポットの清掃のしかた

 危険： くわえたばこや裸火照明での作業禁止



- ・50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
- ・ガソリンやシンナー等の引火性の強い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

- ①燃料コックを「閉」位置にして下さい。
- ②燃料フィルターポットを外し、燃料フィルターポット内部及びフィルターを引火性の低い灯油等の溶剤で洗い、エアーを使って乾燥させて下さい。
- ③元の通りに確実に組み付けて下さい。

※注意：

- ・各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ・各注油箇所の規定のオイルが規定量入っているか又、オイルの漏れはないか点検して下さい。
- ・もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
- ・オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。
- ・各オイルの量の確認は、必ずエンジンを停止し、本機を水平にして行って下さい。

その他の点検

- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）
- ②Vベルトは初期伸びが多少ありますので、2～3時間運転後張り直して下さい。
〈24項参照〉
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。
〈30頁参照〉

各部ワイヤー調整のしかた



危険：

各ワイヤーを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。

走行クラッチワイヤー

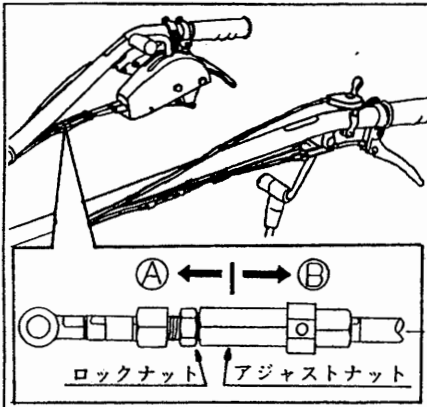


図 1

図 1 を参考に走行クラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・走行クラッチレバーを「前進」或いは「後進」に入れても負荷がかかると V ベルトがスリップする場合。
…アジャストナットをⒷの方向へ…
- ・走行クラッチレバーを「切」位置にしても本機が停止しない、或いはわずかに前後に微動する場合。
…アジャストナットをⒶの方向へ…

ナイフクラッチワイヤー

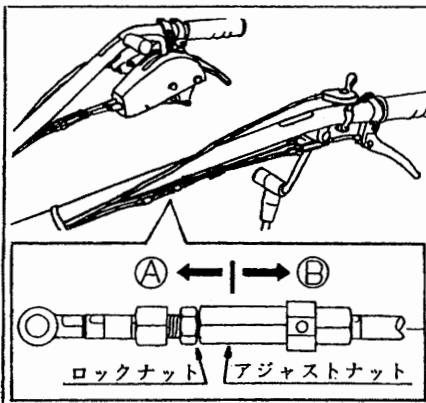


図 2

図 2 を参考にナイフクラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・ナイフクラッチを「入」位置にしても負荷がかかるとベルトがスリップしてナイフの回転が停止する場合。
…アジャストナットをⒷの方向へ…
- ・ナイフクラッチの切れが悪くナイフクラッチを切ってもナイフの回転が停止しない場合。
…アジャストナットをⒶの方向へ…

※注意：

- ・ナイフクラッチワイヤーにはナイフブレーキが接続されています。これの単独での調整は出来ませんがナイフクラッチワイヤーの調整後にはナイフクラッチレバーを「切」位置にすると約 3 秒でナイフが停止するのを確認して下さい。
- ・ベルトは初期のびが多少あります。新品より 2～3 時間運転後、再度調整して下さい。
- ・ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換して下さい。初回 20 時間目、以降 100 時間毎に調整します。ベルトサイズは 27 頁《仕様》参照。
- ・各ワイヤの調整は、アジャスタにて行う物の外、ワイヤ先端の取付け部でも同様の調整が行えますが、作業性等の関係でこの部分で調整を行う場合には、販売店までご依頼ください。（この場合、有償となります）

バッククラッチワイヤー

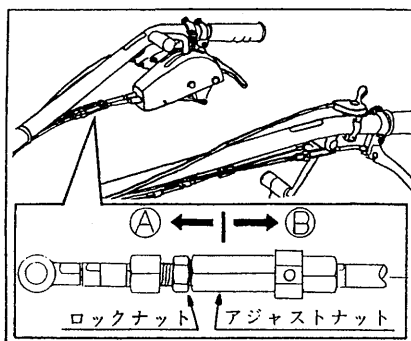


図 3

図 3 を参考にバッククラッチワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・走行クラッチレバーを「後進」位置にしてもバックしない。或いはバックはしても負荷がかかるとギヤが抜ける場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ・走行クラッチレバーを「前進」位置にしてもバックする場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

デフロックワイヤー

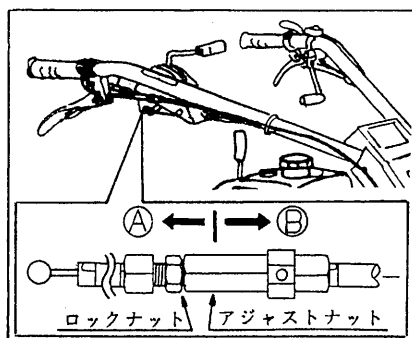


図 4

図 4 を参考にデフロックワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・デフロックレバーを「入」位置にしてもデフロックされない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ・デフロックレバーを「切」位置にしてもデフロックが解除されない場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

ハンドル上下ワイヤー

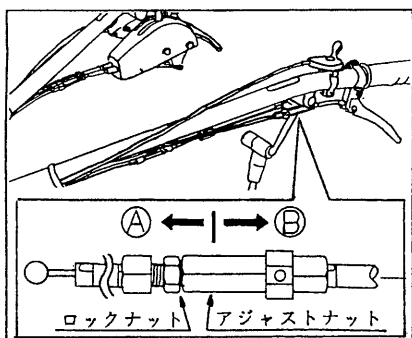


図 5

図 5 を参考にハンドル上下ワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・レバーを操作してもハンドルの上下ができない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ・ハンドルの上下にガタが多く、負荷がかかるとレバー操作しなくてもハンドルが上下してしまう場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

ハンドル左右ワイヤー

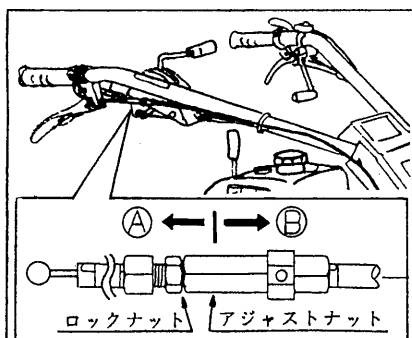


図 6

図 6 を参考にハンドル左右ワイヤーのアジャストナットで調整して下さい。

- ・レバー操作してもハンドル左右できない場合。

…アジャストナットをⒷの方向へ…

- ・ハンドルの左右にガタが多く、負荷がかかるとレバー操作しなくてもハンドルが左右に動いてしまう場合。

…アジャストナットをⒶの方向へ…

参考：

- 各レバーにはいずれもレバー根元での遊びが3~5mm程度になるように調整して下さい。
- 調整後はいずれもロックナットを確実に締付けておいて下さい。

《 ナイフの点検・交換 》

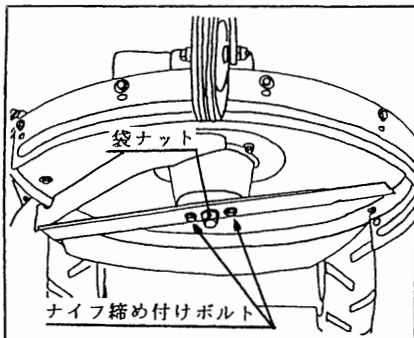
ナイフの点検・交換

◎ 作業を安全に行うために、必ずエンジンを停止した後にナイフの作業前点検を行って下さい。



注意：

- ・作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、曲がりや欠損が生じていないか点検して下さい。異常が発見された場合には新品と交換して下さい。
- ・ナイフの摩耗、割れ、曲がり等を放置すると、ナイフが折損して飛び出し、作業員や付近にいる人に当たったりして、重大な人身事故を招くことがあります。
- ・ケガを避けるため、点検・交換は丈夫な手袋をつけるか、又は布切れでナイフの先端を包んで行って下さい。
- ・この点検・交換は、一人では行わず、必ず二人で行いハンドルをしっかり支えてもらい前部が落下しないように注意して下さい。
- ・ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- ・ナイフ締め付けボルト、ナットも摩耗します。ナイフを交換する際には必ずナイフ締め付けボルト、ナットも同時に交換するようにし、決して他のボルト、ナットで代用はしないで下さい。
- ・作業をする時は手を滑らさないように十分注意して下さい。



①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。〈11頁…エンジン停止のしかた参照〉

②本機を後側へ傾斜させて下さい。

③ナイフ締め付けボルトが緩んでいないか点検して下さい。

★交換の際には元のとおりしっかりとナイフ締め付けボルト、ナットを締め付けておいて下さい。

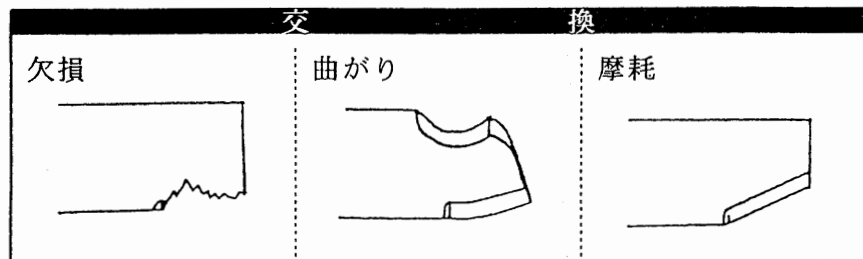
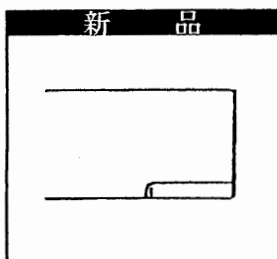
〈ナイフは、二本のユルミ止めボルトと一個の袋ナットで取り付けられています。〉

※注意：

・長時間傾斜させたまま放置しないで下さい。始動性が悪くなることがあります。

④ナイフの割れ、曲り、摩耗を点検して下さい。

下図の様に異常な状態になっていたら裏返して使用するか交換して下さい。



参考：

- ・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
- ・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

《仕様》(参考数値)

名 称		オートモア	
型 式		AM61B	AM71B
全長×全幅×全高 (mm)		1,660×670×800	1,680×760×800
刈 幅(mm)		600	700
刈 高(mm)		10～80 (地面刈禁止)	
ナ イ フ		バーナイフ (両面) × 1 枚	
Vベルト (各1本)	走行	LA38	
	刈取	LB70	
重量 (kg)		87	102
タイヤサイズ		3.50-6 (φ300mm)	3.50-7 (φ350mm)
ハンドル上下		手元レバー式 (上下3段階)	
ハンドル左右		手元レバー式 (中心と左側に2ヶ所 21° 間隔)	
走行・ナイフクラッチ方式		ベルトテンション	
速 度 (km/h)	前 進	①1.8 , ②3.1	①2.0 , ②3.4
	後 進	1.8	2.0
作業能率 (a/h)		①10.0 , ②18.0 (直進時)	①14.0 , ②23.8 (直進時)
エ ン ジ ン	名 称	メイキ	メイキ
	型 式	GB180LN	GB220LN
	排気量 (cc)	181	215
	潤滑油量 (ℓ)	0.6	0.6
	始動方式	リコイルスターター	
	点火プラグ	BP6HS	BP6HS
	燃料タンク容量 (ℓ)	3.0	3.0

《機械を他人に貸すときは・・・》

所有者以外の人に作業をさせないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」を貸してあげて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れな為に思わぬ事故を起こしたりすると、せっかくの親切が“仇”となってしまいます。

《工具袋・同梱品明細》

No.	部 品 名	規格・寸法	個数	備 考
1	取扱説明書		1	
2	品質保証書		1	
3	エンジン工具		1	エンジン付属品
4	両口スパナ	10×12	1	
	〃	14×17	1	
5	片口スパナ	24m/m	1	
6	ゴーグル	保護具	1	防曇タイプ

《消耗品明細》

No.	部 品 名	部品番号	61B	71B	個数 /台	備考
1	ナイフ	80-1415-821-00	○		1	
	〃	80-1445-821-00		○	1	
2	Vベルト(走行)	89-6122-003801	○	○	1	LA-38
3	Vベルト(ナイフ)	89-6123-007001	○	○	1	LB-70
4	走行クラッチワイヤ	83-1415-932-00	○	○	1	
5	ナイフクラッチワイヤ	83-1415-941-00	○	○	1	
6	バッククラッチワイヤ	83-1425-935-00	○	○	1	
7	ハンドル左右ワイヤ	83-1425-965-00	○	○	1	
8	ハンドル上下ワイヤ	83-1425-965-00	○	○	1	
9	スロットルワイヤ	83-1415-951-00	○	○	1	
10	袋ナット(細目)	89-1572-160042	○	○	1	M16
11	バネ座金	89-1750-160002	○	○	1	φ16
12	六角ボルト	89-1113-100252	○	○	2	8T/M10×25
13	バネ座金	89-1750-100002	○	○	1	φ10
14	ナイフネックガード	80-1415-836-00	○	○	1	
15	ナイフ警告マーク	83-1484-921-00	○	○	2	手や足を
16	警告マーク	83-1516-922-00	○	○	1	刈取部周辺
17	〃 マーク	0212-72200	○	○	1	総合
18	G RラベルC	0279-70800	○	○	2	このカバーなし
19	注意 マーク	0209-90200	○	○	1	すね当て

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

項目	点検内容	点検実施時期				
		始業	月次	年次		
原動機	①かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○	
	②回転数と加速の状態	回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○	
	③排気の状態及びガス漏れ	排気色、排気臭及び排気音は正常か。	○	○	○	
	④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ	損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。	○	○	○	
	⑤シンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み	ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか）			○	
	*⑥弁隙間	（正規の隙間であるか）			○	
	*⑦圧縮圧力	（正規の圧縮圧力であるか）			○	
	⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。	エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。	○	○	○	
潤滑装置	①油量、汚れ。	オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○	
	②油漏れ。	オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。	○	○	○	
燃料装置	①燃料漏れ。	燃料の漏れはないか。	○	○	○	
	②燃料フィルタの詰まり。	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○	
	③燃料の量・質。	燃料が入っているか、又質は良いか。	○	○	○	
電気装置	電気配線の接続部の弛み、損傷。	ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。		○	○	
清浄装置	①エアクリーナエレメントの汚れ	エアクリーナエレメントに汚れはないか。	○	○	○	
	②エレメントの破損。	エレメントに破れ、スリ切れはないか。	○	○	○	
冷却系統	①リコイルカバへの草屑等の目詰まり。	リコイルカバが草屑等で目詰まりしていないか。	○	○	○	
	②マフラへの草屑等の堆積。	マフラ周辺に草屑が堆積していないか。	○	○	○	
伝達装置	ベルト	①弛み。	ベルトの張り具合は適切か。	○	○	○
		②損傷、汚れ。	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○
	ミッション	①異音、異常発熱及び作動。	作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。		○	○
②油量、汚れ。		オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。			○	
③油漏れ。		オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。	○	○	○	
車体	車体	亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。	フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。		○	○
	カバー	亀裂、変形、腐食。	亀裂、変形、腐食はないか。			○
	レバー、ワイヤ	レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。	作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。	○	○	○
	表示マーク	損傷	警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。		○	○
走行装置	タイヤ（ホイール）	①空気圧及び溝の深さ。	基準値内であること。	○	○	○
		②亀裂、損傷及び偏摩耗。	亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。	○	○	○
		③金属片、石その他の異物の噛み込み。	異物の噛み込みはないか。	○	○	○
		④ボルト・ナットの弛み、脱落。	ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		⑤ガタ、異音。	取付部に異音、ガタはないか。		○	○
作業装置	ナイフ	①ナイフの損傷、バランス	亀裂、変形、損傷はないか、又、左右のバランスに異常はないか	○	○	○
		②ナイフ取付ボルトの緩み	ボルトの弛み、脱落はないか。	○	○	○
		③ナイフギアボックスのオイル	オイル量は適切化、又、著しい汚れはないか			○
		④ロータリーカバー、排出カバー	亀裂、変形、腐食はないか。	○	○	○

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《刈り取り性能診断》





もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

現 象	原 因	処 置
刈草がうまく放出しない。	草が湿っている。	草が乾燥してから作業する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二度刈する。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	エンジン回転数が低い。	最高回転数にする。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
刈残しが出る。	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	エンジン回転数が低い。	最高回転にする。
	ナイフの摩耗、破損。	新しいナイフと交換する。
	ナイフカバー内への草屑の堆積。	ナイフカバー内面を清掃する。
	草が長い。	二度刈りをする。
土削りを発生する。	刈高さが低い。	刈高さを高くする。
	旋回速度が速い。	旋回時の速度を落とす。
	地形にうねりがある。	草刈りパターン(刈取方向)を変える。
	地形に起伏(凸凹)が多い。	刈高さを高くする。
	ナイフの曲がり。	新しいナイフと交換する。
ナイフがスリップする。	ベルトの張力が低い。	ベルトの張力を調整する。
	ナイフカバー内に異物が詰まっている。	ナイフカバー内を清掃する。
	プーリへの草の堆積。	プーリをきれいに清掃する。
	ベルトの摩耗。	新しいベルトと交換する。
変速しない。	変速の位置がズれている。	変速ワイヤの調整
	ミッションの不具合。	ミッションの修理。
振動が大きい。	ナイフのバランスが悪い。	ナイフを修正する。
	ナイフの損傷。	新しいナイフと交換するか、修正する。
	ナイフネックガード内への草の堆積。損傷。	ナイフネックガードを清掃、交換する。
	ナイフ軸が曲がっている。	ナイフ軸を交換する。
	ベルトの破損。	新しいベルトに交換する。
刈り取り作業負荷が大きい。	エンジン回転が低い。	エンジン回転を上げる。
	作業速度が速い。	作業速度を落とす。
	ナイフの回転軸周りに草が堆積、又は巻きついている。	ナイフをきれいに清掃する。
	草が長い。	刈高さを高くして、二回刈りをする。
	刈高さが低い。	刈高さを高くする。

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

現象	原因	処置
始動困難な場合 (始動しない場合)	スロットルレバーが「始動」の位置でない。	スロットルレバーを「始動」の位置にする。
	チョークバルブを引いていない。	エンジン冷却時、チョークバルブを  位置にする。
	燃料が流れない。	燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。 燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。
	燃料送油系統に、空気や水が混入している。	異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。
	寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。	気温によってオイルを使い分けする。
	点火コイル、又はユニットの不良。	*点火コイル、又はユニットを交換する。
	点火プラグの不調。	点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。
出力不足の場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	エアクリーナの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークバルブを完全に戻す。  位置にする。
	冷却系統が目詰まりをしている。	リコイルスタータ周辺を清掃する。
突然停止した場合	燃料不足。	燃料を補給する。
	燃料コックが閉じている。	燃料コックを開く。
排気色が異常に黒い場合	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
マフラから黒煙が出て出力が低下した場合	エアクリーナエレメントの目詰まり。	エレメントを清掃する。
	チョークが完全に開いていない。	チョークバルブを完全に戻す。  位置にする。
マフラから青白煙が出た場合	エンジンオイルの入れすぎ。	正規のオイル量にする。
	シリンダ・ピストンリングの摩耗。	*リングを交換する。
エンジン回転が安定しない(上昇しない)	チョークが完全に開いていない。	チョークバルブを完全に戻す。  位置にする。
	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。
しばらくするとエンストする。	点火コイルの不良。	*点火コイルを交換する。
	燃料フィルタの目詰まり。	燃料フィルタを清掃する。
排気に刺激臭がある。	燃料の質が悪い。	良質の燃料と交換する。

※ *印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。